

令和7年8月22日
すぎなみ相談支援事業所連絡会

令和7年度 すぎなみ相談支援連絡会 第2回全体会 報告書

テーマ:相談支援専門員としての災害時対応 その時あなたはどのようにしますか？
～BCPとの連動について考える～

1. 日時 令和7年8月22日(金)10:00～12:00
2. 場所 ウェルファーム杉並4階共用会議室
〒167-0032 杉並区天沼3丁目19番16号
3. 内容
 - ①開会挨拶(会長より)・・・スギコーマネジメントセンター 阿部氏
 - ②企画の趣旨説明・・・あおいサポートステーション 阿多氏(5分)
 - ③杉並区の防災体制 及び 災害対策基本法改正について
防災課 野口さん(20分)、保健福祉部管理課 小林係長・松崎氏(10分)
資料:[杉並区の防災体制\(PPT\)](#)
[災害対策基本法改正\(PDF\)](#)
 - ④震災時の視覚障害者支援から・・・相談支援事業所ういる 高橋氏(15分)
資料:[震災時の視覚障害者支援から\(PDF\)](#)
 - ⑤すぎ相連版 災害時個別非難計画基本情報シートについて・・・阿多氏(5分)
資料:[すぎ相連版 災害時個別避難計画基本情報シート\(PDF\)](#)
 - ⑥質疑応答(10分)
 - ⑦グループワーク(30～40分)
 - ⑧意見発表(10分)
 - ⑨連絡事項等
 - ⑩アンケート結果

グループワーク議事録

Aグループ

- 地域の手を入れたのは、重度の人や家族負担が多い家庭が多かった印象。
- すぎ相連の緊急時情報に加えて地域の手の情報もあり、情報が増えると何を見たら良いか迷う可能性がある。
- 最も重要なのは「漏れのない安否確認」。
 - 防災の安否確認、地域の手による安否確認があるが、どこまで網羅できているか不明。
 - それが明らかになれば福祉職でも対応できる。相談支援だけでなく他の福祉職も関わることで対応可能。
- 手帳を持っているのに福祉サービスを受けていない人は「すまいる」を受ける必要があると思う。
- 防災課と福祉職の連携は必要だが、現状は特に決まっていない。
- 災害時に安否確認が重複するのは無駄。役割分担を事前に決めておく必要がある。
- 杉並区の非常配備態勢は「区役所職員全員」という意味。
- すぎ相連の緊急時連絡シートに、杉並区などを含めた役割分担を記載し対応を決めた方が良い。
 - 現場から安否確認を相談支援が行うこともあるが、難しい点は市区町村にしっかり伝えるべき。
- 石川県のように現地も被災している場合は対応が難しい。
 - 杉並で災害が起きた場合は相馬市が支援に来るだろうから、事前に情報を伝えておく必要がある。
 - 支援拒否が起きないように、前もって取り決めや法的整備が必要。
- 緊急時こそ「漏れのない安否確認」が重要。町内会・民生委員との連携が必要だが、どこまで対応してくれるか懸念がある。
- 自分の地区に要支援者がどれだけいるかを事前に把握しておくことが、災害時の対応につながる。

- 重度の児童は二次避難所にすぐには行けない。
 - 一時避難所でも落ち着けず、行動障害でトラブルを起こす可能性がある。
 - よりスムーズに避難できる仕組みが必要。
 - 家族会などで「要配慮者の避難方法」を研修してもよい。
 - 災害発生時間によって対応が変わる。
 - 日中なら対応しやすいが、朝・夜は困難。
 - 事前に方針を決めておくべき。
 - 法改正により在宅避難が可能になったが、家族ごとに意識が異なる。
 - 引きこもりの人は避難所に行けない可能性が高い。
 - 安否確認を何日で終えるのか、そのイメージを持つ必要がある。
 - 安否確認の集約方法も課題。
 - 在宅避難者をどう確認するかが難しい。
 - 対策拠点で集約する想定だが、ネット環境が不十分だとリアルタイム確認が難しい。
 - 重複を避けるため、区市町村が主体となり「どこまで誰が対応するか」を決めておく必要がある。
-

Bグループ

- 二次救援所・福祉救援所の利用イメージ
 - 二次救援所：静かな環境を好む人、だれでもトイレを使う人、妊婦、聴覚障害者など
 - 震災救援所(学校体育館)で過ごせない人 → 二次救援所(区民センター)へ
 - 体育館より落ち着いた環境
 - 個別対応が必要な人 → 福祉救援所へ

- 相談支援専門員の視点
 - 避難に配慮を要するかどうか確認できているか
 - パニック障害の人はどうなるのか
 - 単身生活者なども想定しておく必要
- ささえあいサービス
 - 数人利用(知的障害・身体障害の人など)
 - 民生委員が数年ぶりに確認に来る例あり(毎年ではない)
 - 更新されず数年経過するケースもある
 - 民生委員が不足しているなら、障害のない住民を対象にする案もあり
 - 親が「自分たちがいない時に活用できるように」と登録した例もある
 - 民生委員のなり手自体が減っている
- 地域住民とのつながり
 - 自分の地域にどんな人が住んでいるか知るだけでも役立つ
 - 近所とのつながりが大事
 - ドアに白い布をかけて「在室」を示すルールを作った例あり
- 都会ならではの課題
 - 働く地域と住む地域が異なる場合がある
 - 匿名性を重視して情報公開を拒否する当事者もいる
- すぎ相連のシート
 - 利用者と話しやすくなる
 - 効果があるかは実際に試してみて判断すればよい
 - 救援登録は本人の選択権がある
 - 既存資源を活用して非常時の行動を具体化すべき
- グループホームの災害対策

- 非常用品に加え、ライフジャケットを用意している例もある
 - 入居者が災害時にホームにいるかどうかで対応が変わる
 - 会社と個人の備え
 - 会社のBCPはあるが、個人の行動想定はできていない
 - 要配慮者のリスト化は未対応 → 今後の課題
 - 災害時の想定
 - 自分が被災する想定ができていない
 - 自分自身の想定を持つ必要がある
-

Cグループ

- BCPに関して
 - 1人事業所のため、内容はざっくりとしたものにとどまっている。
 - BCPとして社内連絡網を作成し、安否確認の優先者をピックアップ。
 - 介護度による優先順位のほか、水害など災害の種類によって住所地で優先順位が変わると考えられる。
 - BCPへの取り組みは「どこから始めればよいかわからない」ところがあったが、実際に動くことで方向性が見えてくるかもしれない。
- 水害・避難に関する事例
 - 水害避難対象エリアに住む高齢者は情報入手力が弱く、ケアマネの電話で初めて知ったケースがあった。
- 地域での取り組み
 - 会社として、社員全員で1時間かけて地域を歩き確認。
 - 公衆電話が少ないなどの発見があった。
 - 住民参加型の避難訓練は行政主催で年4回実施しているため参加してほしい。秋に地震訓練を予定。

- 防災資料が必要な場合は、防災課に問い合わせ可能。
 - 利用者とともに行う活動
 - 利用者と一緒に災害電話の練習を予定（毎月1日と15日に実施可能）。
 - 通所先利用者と避難訓練を繰り返し実施。知的障害のある方も思いのほかスムーズに行動している。
 - 災害の種類ごとの対応
 - 防災と一口に言っても、水害と地震など、災害の種類によって避難場所やルートが異なる。
 - 経験の不足と学び
 - 東日本大震災当時はまだこの仕事についておらず、有事を想定できない。
 - 経験者の話をもっと聞きたい。
 - その他
 - 情報の見える化を進めることが望ましい。
-

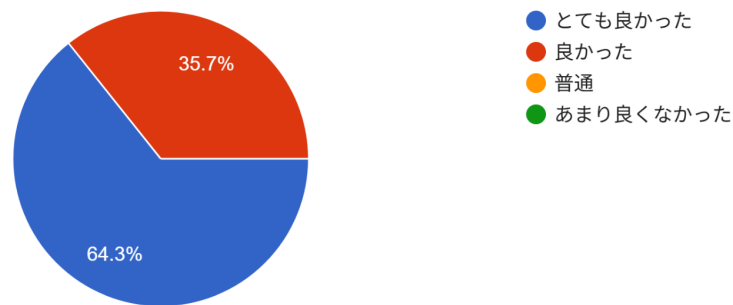
Dグループ

- **BCPの現状**
 - 普段の業務が忙しくBCPまで手が回っていない
 - 何をすればよいか分からない
 - 作成だけして実効性が伴っていない
- 災害への意識
 - 実際に災害が起きないと考えられない
 - ニュース（水害など）で危機意識は高まっている
 - 日常的に考える必要がある

- 情報活用とモニタリング
 - すぎ相連の基本情報を活用できると良い
 - 日常のモニタリングで情報を蓄積したい
- 自治体の違い
 - 自治体によって考え方が異なる
 - 杉並は対応が甘い
 - 他自治体では相談支援専門員が災害時計画を立てている例もある
 - 専門部を作るのも有効かもしれない
- すまいるの防災プログラム
 - 9月に実施することが多い
 - 軽度の知的障害者向け
 - 災害に対して恐怖や不安を持つ人もいる
 - 災害時の一人での対応(連絡・交通機関利用など)に不安を持つ人もいる
 - 内容は一般的だが、体験型の方が理解につながる
 - 例:トイレやベッドを実際に作る体験型プログラム
- 個人情報・同意書
 - 個人情報同意書に「災害時の取り扱い」を含めても良いのではないか
- ネットワーク・シートの活用
 - たすけあいネットワークに登録している障害者は少ない
 - すぎ相連のシートは活用可能性がある

アンケート結果

本日の全体会に参加した感想について
14 件の回答



個別で感想があればお願いします 6 件の回答

引続き杉並区の福祉防災対策の研修をお願いします。

危機感はあるけれど、区の動きや、要介助者の種別によって縦割りで合ったり、関わるサービス事業者の数が違うため、共有の難しさを感じました。『安否確認』をどのように誰が行うか、どこに報告して、どこが取りまとめるのか？さらには、ご利用者お一人に対する支援者(複数の事業者)にどう伝えるのか等、初動からの難しさを感じました。知らない事が多く、勉強になりました。

高橋さんのお話は、災害現場の実際や、被災者支援の苦労など知ることができて良かった。

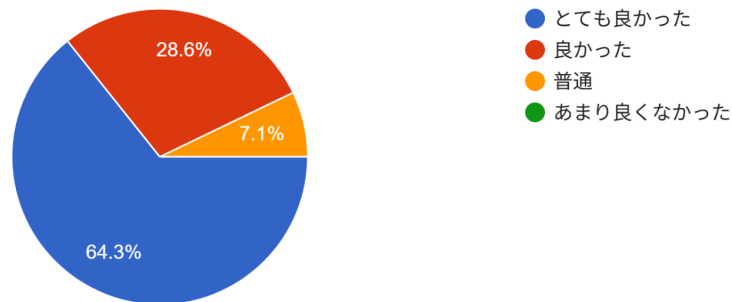
その後のグループワークでも、安否確認の方法のあり方など有意義な議論ができた。

災害時に対応できるよう、日頃から考えておくこと、避難所を確認するなど実際に行動してみることが大切だと痛感しました。どのような支援が必要か、予め準備できることは何かなどを考えて、準備を進めたいと思いました。

聞きたいことは持ち帰りで玉虫色でした。

災害時避難計画についてはボランティアじゃなく、報酬をつけて策定する方が進むと思いました。

本日の全体会の進め方について
14 件の回答



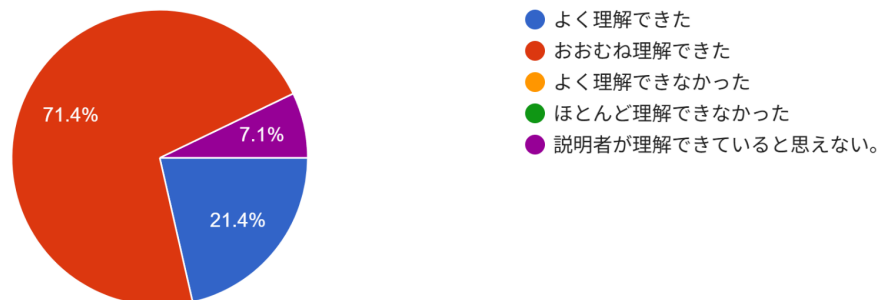
進め方についてご意見あればお願いします 3 件の回答

ありがとうございました。

分かりやすくスムーズな進行だと感じました。

特にありません。

「杉並区防災体制及び災害対策基本法改正」について
14 件の回答



上記の内容について個別にご意見あればご記入ください 4 件の回答

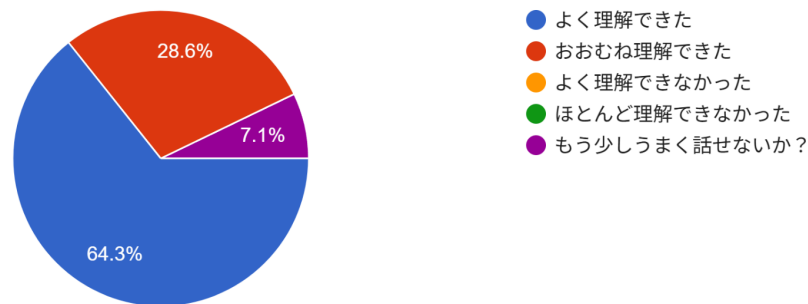
上記についての改善策が、必要な部分があると感じました。

杉並区防災体制についての知識が乏しかったので、説明を聞くことができて良かったです。杉並区として「自助」「共助」を高めるために、日頃から相談支援専門員にどのような動きをしてもらいたいと思っていますかをお聞きできればと思いました。

特にありません。

地域の手の活用方法について 介護保険の場合はケアマネジャーが民生委員と同席して個別計画の作成時に助言する事も有るが 障害の方の場合はどうなのか聞いておけばよかった。障害特性によって 対応が大きく変わるので 高齢者の避難所対応とは異なる対応が求められると思われる。より個別性が必要だと感じた。

「震災時の視覚障害者支援から」について
14 件の回答



上記の内容について個別にご意見あればご記入ください5 件の回答

具体的な事例の話しがあり、緊急時への危機感を持った。障害による個別的なところを考えながら相談として事業所内でも対応方法を確認していきたい。

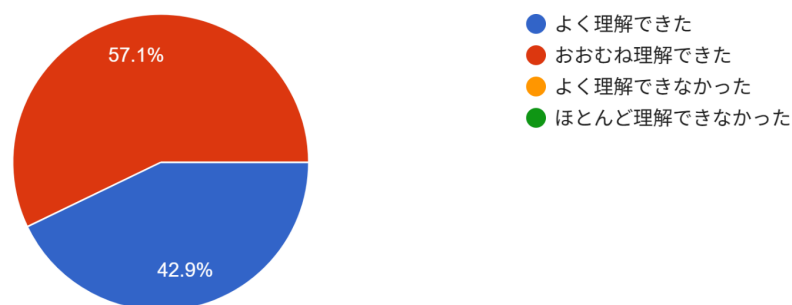
課題が多いので早急な改善対策案と周知が必要だと思いました。

これまでの大地震での支援について具体的に話を聞くことができ、大変勉強になりました。こういった体験談を共有し、予め具体的な支援について考えておくことが大切だと感じました。

実体験と視覚障害に絞っているので分かりやすかったです。

非常に良かった。流石高橋さん。個別に事業所に来てもらい、講義してほしいと思いました。

「すぎ相連版 災害時個別避難計画基本情報シート」について
14 件の回答



上記の内容について個別にご意見あればご記入ください3 件の回答

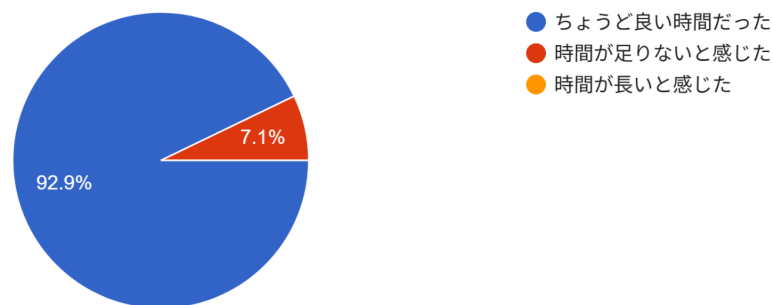
情報シートに必要なポイントが集約されていたので、事業所で話しやすい形になっていたのを助かります。作成ありがとうございます。

とても素晴らしいツールだと感じました。災害時に役立つことはもちろん、災害時や緊急時のことを日頃から相談者と話し合うきっかけとしても使えるツールだと思いました。

特にありません。

グループワークについて

14 件の回答



上記の内容について個別にご意見あればご記入ください4 件の回答

問題意識を持って参加されている方が多く、皆さんの意見を聞かせて頂く中で、それぞれの事業所で個別に抱えている、災害時の問題点を知ることが出来ました。

各事業所のBCPIについて具体的な取り組みを聞くことができて良かったです。

特にありません。

研修の後に行う、グループワークは盛り上がるのでもう少し長くてもよかった。研修の内容はよかったが、区の人たちが質疑応答にほぼ答えられないので、質問のしても無駄なのかと思ってしまった。

今後すぎ相連で行って欲しい活動などありましたら、お答えください3 件の回答

各事業所とも多忙ではあるので、今回の災害の話しを含めて、同じ内容を深掘り・実施できる機会になげられる場があると少し進みやすいのかもしれないと思いました。

老々介護等の問題を知りたいです。

交流会を是非開催してほしい。

すぎ相連の活動、その他何でもご意見あればお願いします4 件の回答

いつもありがとうございます。この震災対応の話は、自立支援協議会の分科会になれば杉並区も真剣に対応せざるを得ないと思いました。主任が増えるし分科会を増やした方がいいのでは？と勝に思います。

高齢化、GHの休日の支援体制の課題など現状で出来る所を区と一緒に考えて行けたらと思います。開催に向けてご準備等のご対応ありがとうございます

いつも有意義な研修を企画していただき、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

何時もありがとうございます。